

集会アピール(案)

「10.21 国際反戦デー」は、45年前・1966年10月21日に、ベトナム戦争に反対する労働組合がストライキを決行したことから始まりました。それ以降、世界各国でこの日を国際統一行動日とするようになり、私たちも、戦争のない平和な世界をつくるために、県労協時代からの取り組みをしっかりと引き継ぎ、本集会を毎年開催してきました。

この間の民主党政権は混迷を極め、普天間基地問題で沖縄県民の願いを踏みにじり、日米同盟の合意を継続するばかりか、武器輸出三原則の見直しを強行に閣議決定し、原発輸出政策を積極的に展開するなど、自民党政権でも実現できなかった政策転換に踏み込もうとしています。

さらに、米国政府に追随する野田政権は、開発段階から墜落事故を繰り返すオスプレイを普天間基地に強行配備するばかりか、市街地上空で繰り返される試験飛行を黙認するなど、「基地の無い平和な沖縄」を求める県民にさらなる負担を押し付けています。日本全国の圧倒的な反対世論を無視し、国策・国益という言葉で「世界一危険な普天間基地」に欠陥機オスプレイを配備・運用することは、国民の生命より日米安保を優先することであり、絶対に許すことができません。

一方、自民党は憲法「改正」を声高に叫び、集団的自衛権の行使、改憲手続きの簡素化、自衛隊の国防軍化、天皇の元首化など「戦争のできる国」づくりを、右傾化する民主党と共に一気に推し進めようとしています。憲法改悪、崩し的な解釈改憲を許さず、核も基地も原発もない平和で安心して暮らせる社会を実現するためには、大衆運動で大きな世論をつくるしかありません。

県民の皆さん！ 私たち県平和運動センターは、オスプレイの配備撤回、普天間基地の返還はもとより、「武力で平和はつukれない」という一貫した姿勢で、9条をはじめとする憲法をまもり、平和と暮らしをまもるために、皆さんと力を合わせて一歩ずつ前進することを内外にアピールします。一緒にがんばりましょう。

2012年10月19日

10.21 国際反戦デー 富山県民集会